

ケータイを語る

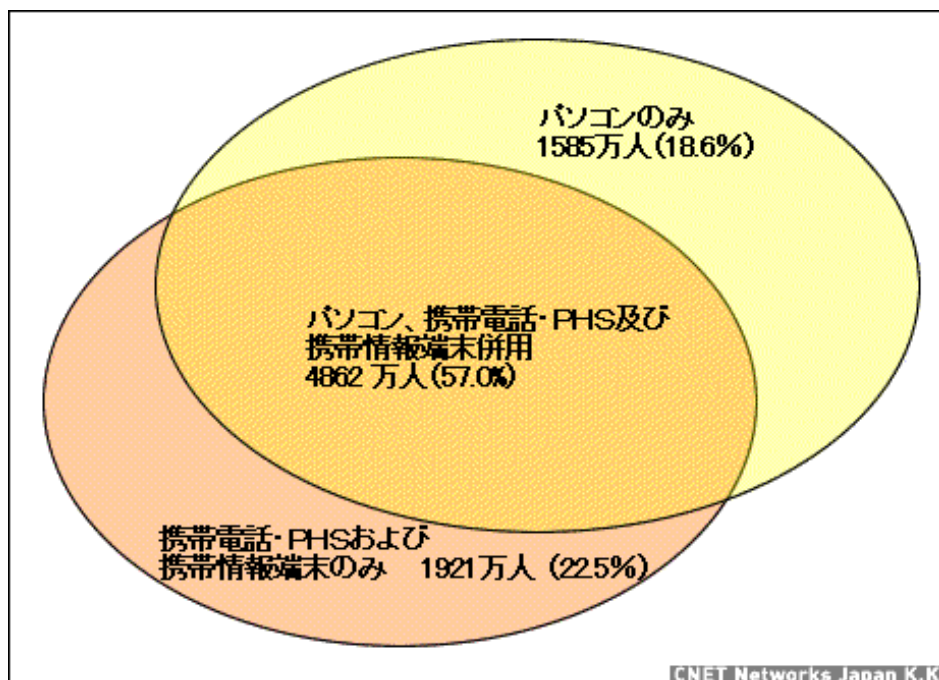
1) 現代の妖怪・その名はケータイ



「たかがケータイ、されどケータイ」今や町を歩きながらも、電車の中でも、自転車に乗っていても、人々はケータイを手離せなくなってしまったようです。ところが我々老人にとっては、こいつはまるで不可解なパズルの世界？いざケータイを買おうとか、買い換えようとかすれば、貴方は間違いなく**悪夢のような迷路**に踏み込んでしまうでしょう。ずらりと並んだ眩いばかりの機種、複雑・難解なサービス契約設定、物凄い囲い込み競争の渦の中で、貴方は聞いたこともない単語の羅列に、呆然とするばかり・・・結局は何となく見ただけで買ってしまふ羽目に陥ります。そして、とにかく買ってはみたものの、矢鱈に難しい多くの機能、眼鏡をかけてもとても読めない超微細な説明書、わけの判らない項目が並ぶ請求書、殆んどロクに使えないのに毎月の自動引き落としの支払いは腹立たしいばかり・・・そして、解約手続きとなると、買う時の優しさとは裏腹な解約料を筆り取られるのです。

かくて、超便利なツールの筈が、結局は「カエルコール」でしか使っていない
というに至っては、老人にとってケータイこそIT時代に生き残るためには越
えなければならない大きな山となってしまったようです。

ケータイを理解しなければ、貴方は立派なデジタル・ディバイド！！??



現在の日本ではインターネットをパソコンでやる人より、ケータイでという人の方が遥かに多くなっており、パソコンはもはやITの主役ではなくなっていると言ったべきでしょう。(上の図は実は3年くらい前の数字で、現在両者の差はもっともっと大きいはずです) ケータイは単なる携帯電話ではない！？若者はケータイで専らメールをしているのです。

また、付随しているだけのはずだったカメラは、今や概ね200万画素以上で、機種を選べばデジカメ顔負けの800万画素すらあります。ヴォイス・レコーダー、お財布機能、テレビだって何時でも何処でも観れるのですよ！！ケータイと云えば電話と思っていた我々は、こんなに進化してしまったツールに毎月結構な代金を払いながら、未だロクにその機能をこなし切れてないというわけには行かないでしょう。

さあ、我々老人もオンナ・コドモに負けてはいられない。

今月は何とかこの「妖怪ケータイ」をやっつけよう！！！！

2) ケータイの進化

先ずは今回のハナシの発端となった、携帯電話の「世代」から論じてみよう。或る日副島さんが受け取った通知は、下記のようなものだったと考えられる。

『第2世代携帯電話サービスの終了について

2008年7月3日

ソフトバンクモバイル株式会社

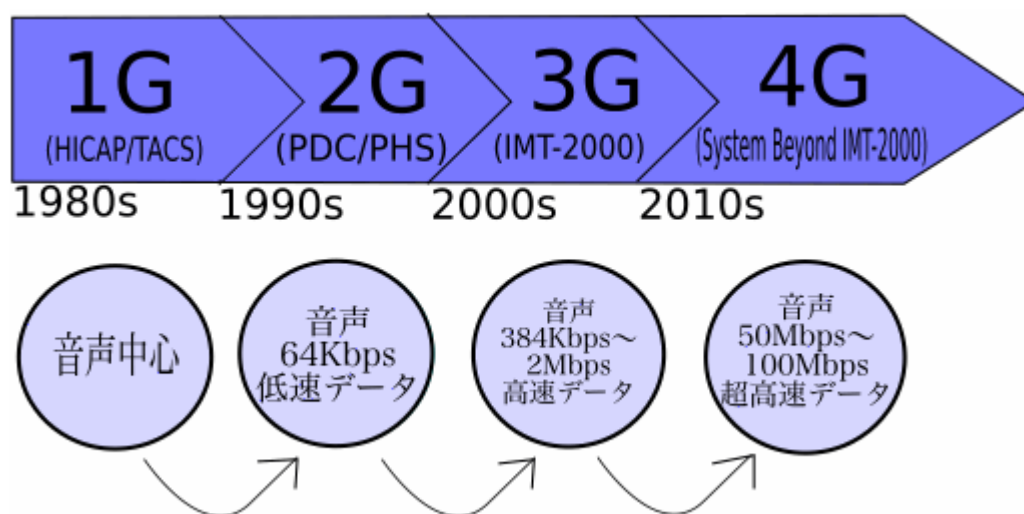
ソフトバンクモバイル株式会社（本社：東京都港区、社長：孫正義）は、2010年3月31日（水）までに、第2世代（2G）携帯電話サービスを終了させていただきます。

第2世代携帯電話サービスは、1994年4月より提供を開始しましたが、2002年12月からは、第3世代（3G）携帯電話サービスを導入し、インターネットポータルサイト「Yahoo!ケータイ」、国際ローミングサービス「世界対応ケータイ」、高速インターネット接続サービス「3G ハイスピード」など利便性の高い付加サービスの実現に取り組んだ結果、多くのお客さまに第3世代携帯電話サービスをご利用いただいております。こうした状況を鑑み、大容量かつ高速な通信の特性を生かしたサービスの充実が図られている第3世代携帯電話サービスへの移行をより促進し、第3世代携帯電話サービスに経営資源を集中することで、さらなるお客さまの満足度の向上を図ることとしました。

現在、第2世代携帯電話サービスをご利用のお客さまには、サービスの終了および第3世代携帯電話への変更などをご案内させていただきます。詳細につきましては、ダイレクトメールおよびソフトバンクショップなどでご案内いたします。』

こんなことを突然云われて、携帯電話の買換えを強制されたら、誰でも不快を覚えるだろうが、実はこれはソフトバンクだけではなく、ドコモもAuも同じような世代交替をさせられているのである。

つまり、携帯電話の進化により、古い端末は使えなくなるというだけのことで、今進行中のテレビの地上デジタル放送による、受像機或いはチューナーの買換えと同じことなのだ。



携帯電話は1980年代に現れてから、10年ごとに進化の中で世代交代を遂げている。

第一世代携帯電話

第一世代携帯電話（だいいちせだいけいたいでんわ）は、初めて実用化されたアナログ方式の携帯電話のこと。

日本ではNTT大容量方式やTACS等のFDD-FDMA-FM方式が、アメリカではAMPSが、ヨーロッパではNMTが、それぞれ用いられた。

一般的に英語の「1st Generation」から、「1G（いちジー、ワンジー）」などと略される。

日本では2000年9月のTACS方式のサービス終了に伴い（NTT大容量方式は1999年3月で終了）、第一世代携帯電話のサービスは終了してデジタル携帯電話サービスに一本化されたが、アメリカ等では現在でも利用者が多い。

第二世代携帯電話

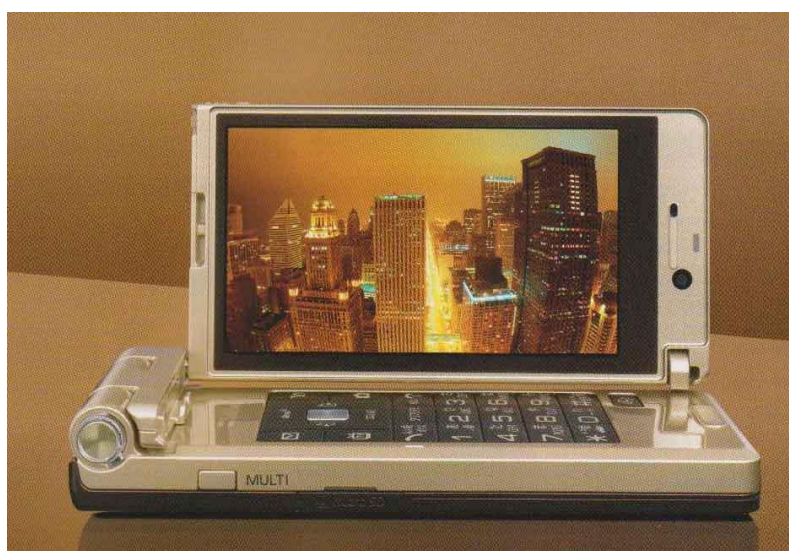
第二世代携帯電話（だいにせだいけいたいでんわ）は、第三世代携帯電話よりも以前のデジタル方式の携帯電話のこと。1993年に登場。NTT大容量方式・TACS等のFDD-FDMA-FMのアナログ携帯電話を第一世代携帯電話と呼ぶのに対して、第二世代のデジタル方式を採用している事からこのように呼ぶ。

一般的に英語の「2nd Generation」から、「2G（にジー、ツージー）」などとも略される。デジタル方式の採用により、携帯電話（PHS含む）の端末の電子メールやウェブ対応を始めとして、その他のデジタルツールとしての付加機能が搭載されるようになり、高機能化が大幅に加速した。

第三世代携帯電話

第三世代携帯電話（だいさんせだいけいたいでんわ）とは、国際電気通信連合（ITU）の定める「IMT-2000」規格に準拠したデジタル方式の携帯電話やその方式のこと。欧州では、UMTS（Universal Mobile Telecommunications System）とも呼ばれる。一般的に英語の「3rd Generation」から、「3G（さんジー、スリージー）」などと略される。

世界共通の通話周波数（2GHz帯のみ）で、UIMカードを採用して電話番号を替えずに国際ローミングを可能にし、高速なデータ通信、テレビ電話などのマルチメディアを利用した各種のサービスなどを可能にした。しかし、周波数オークションの価格上昇などによりサービス開始が遅れている国も多い。



同じ第三世代でも、今のケータイではテレビも観ることが出来る！

気になるのは次ぎの世代交代は何時の事か？であろうが・・・

第四世代携帯電話

第四世代携帯電話（だいにせだいいけいたいでんわ）とは、ITU（国際電気通信連合）が2009年に策定予定の通信規格に準拠するデジタル方式の携帯電話やその方式のこと。「4G」などと表記する。

3Gや3.5Gより次の世代であることから、Beyond 3G(B3G)とも呼称される。また、ITUにおいては、4Gに当たるIMT-2000の後継システムをsystems beyond IMT-2000あるいはIMT-Advancedと呼称している。

第四世代携帯電話は、2007年に開催の世界無線通信会議（WRC）において、世界共通の周波数帯が採択され、通信規格を策定している。

第四世代携帯電話の特徴としては、50Mbps～1Gbps程度の超高速大容量通信を実現し、IPv6に対応し、無線LANやWiMAX、Bluetoothなどと連携し固定通信網と移動通信網をシームレスに利用(FMC)できるようになる点がある。

通信スピードが超高速化される代わりに、第三世代携帯電話で使用している2GHz帯より高い周波数帯を用いる予定であるため、電波伝搬特性によりサービスエリアが狭くなってしまうことや、電波の直進性が高いことにより屋内への電波が届きにくいことが予想されている。サービス時には第三世代携帯電話とのデュアルモードで利用される可能性が高い。

また、通信速度の高速化はシャノン＝ハートレーの定理により高消費電力も招きうるものであるため、モバイル環境での電源容量の確保も技術的な課題となっている。

日本国内における動向

NTTドコモでは、2003年5月から屋外実験を開始しており、2004年8月20日には1Gbps、2005年12月14日には2.5Gbps、2006年12月25日には5Gbpsの packets 信号伝送に成功した。

NTTドコモの実験では、無線アクセス方式にVSB-Spread OFDMを、周波数帯域幅に100MHzを使用し行われた。

しかし、第四世代の携帯電話が実用化されるには、未だ時間がかかると考えられており、恐らくは2015年頃というのが大勢意見のようである。

（まあ皆さん慌てなくても今お手持ちの3-Gで当分は大丈夫なのです）

3) ケータイの何が問題なのか？

ケータイは携帯電話ではない。
それは昔のハナシ、或いは今の我々老人の頭の中でのハナシなのだ。



電話という機能は当然の項目であり、電波が通じないとか、音声が届きにくいとか、電話機としての性能等々、電話そのこと自体については今や全く問題が無いと考えられるほど携帯電話は進化し、成熟してしまったのである。であるから、若者特に女性にとってはケータイというのは、電話であるより、もっと多機能なツールであり、購入する際に重視するのは次ぎのようなポイントである。

携帯電話で重視する機能（数字は順位）

日経新聞09-1-29

	全体	男	女
カメラ	1	1	1
ワンセグ	2	2	3
絵文字メール	3	7	2

音楽プレーヤー	4	3	5
GPS	5	4	7
お財布ケーター	6	5	6
歩数計等健康管理機能	7	8	4
タッチパネル	8	6	7

ヤングはケータイを買い換えるに当たって、電話機能などは考えもしない。それは当然備わっている機能なのだから、選択のポイントはその他の機能ということになってしまいうらしい。

更には端末のカラー、形のファッション性も重要であろう。そして、四六時中手から離す事なく、日常的に座右のツールとなっているのだ。

ところで、我々老人はどうなるかと云えば、多分電話を、それも外出時に使うだけで、恐らく大多数の人は自分の家からケータイで電話するなどということはしないのではないだろうか？ もっと云えば、自分のケータイに外から電話が掛かって来ることなぞあまり無い・・・だから、ケータイの電源は常にオンになってはいない！！？？

もしも公衆電話がこれほどまでに街角から消えてしなうことがなかったら、ケータイを持つ必然性はさほど高くないというのが正直のところなのではあるまいか？？？

さてそうすると、MCCメンバーにとっての関心事は、多分ケータイの多様な機能を理解し、使いこなすことではなく、今のような使い方ですれれば安く出来るかにあるような気がして来た。

これは正鵠を射ているのだろうか？？？？

—つづく—

MCCケータイ・アンケート結果

氏名	所有	会社	所有期間	利用度	効用感	新規買い	コメント
1 荒川 正三	×					◎	今や必要不可欠の認識、興味は活用(A, B)
2 石井 利一	○	V	3	A	高い	×	公衆電話が無いので必需品である
3 石田 錠二	○	D	3	A, B		×	入院時活用したが、今は関心なし
4 大塚 昭	○	A	3	A, B, C	高い	×	13年前から3代目機能見直したい、電磁波の影響知りたい
6 亀山 晃一							
7 久保田 侑義	○	V	3	A	そこそこ	×	12年前から2代目この機会に少なくとも費用分は活用出来るようになった
8 小島 豊康	○	D	4.5	A	割高	×	カメラに改めて注目、その他機能にも関心あり
9 副島 勲	○	V	0	A, B	高い	×	電池劣化に悩んだ、機種変更は煩わしい
10 竹内 弘	×						大いに関心はある
11 田中 弘文	○	A	3		高い	×	カメラがよくなったことに注目
12 田中 勇介	○	D	5	A, B	不満なし	×	電話帳で手帳不要になった、以前は海外に関心あったが5年前から3代目、インターネットはPCで、カメラは着いていない機種を選んだ
13 徳田 浩次	○	D	1	A, B	割高	×	
14 橋本 大道	○	V	2	A	割高	○	電話だけでももう少し安い機種に買換え考慮中
15 広田 丹							
16 矢野 昭二	○	A	1	A, B, C	高い	×	カメラ、PCとの共用に関心あり
17 吉田 益垣	○	D	3		そこそこ	×	万歩計

注： 会社欄の D=NTT-ドコモ、 A=KDD-Au、 V=ソフトバンク・Vodafone
 利用欄の A=電話、 B=メール、 C=カメラ

4) ケータイの選び方

A) 何よりも大事なのは電話会社選び

まずは、携帯電話会社選びからで、これが最も重要なのです。

○会社は5社

携帯電話、PHS会社の新規受付をしている会社は、ドコモ、au、ソフトバンク、ウィルコム、イーモバイルです。ウィルコムはPHSで、イーモバイルは現在音声通話サービスを行っていません。

従って会社選びはドコモ、au、ソフトバンクの三つからということです。

○電波が一番大切

携帯電話で一番大切なことは電波です。都市部でも、建物の中では電波が悪いことがあります。

一般論として、ドコモ、auに比べソフトバンクは電波が悪いと云われたこともあります。我々の場合はこの点で3社に特に差はないと考えていいでしょう。

○料金ほどの会社が安いのか？

料金については、もうすでに家族が携帯電話を持っている場合は、同じ会社にして、家族割引にすることをお勧めします。家族間の通話料が割引になりますし、基本使用料の割引や契約解約料が安くなるなどの特典があるからです。

上記に該当しない方はどこにすればよいかですが、答えは「人によって違う」です。一般論をいうと、安い順にソフトバンク<au<ドコモとなります。が、これはあくまで一般論であって、要するに費用対効果ということ、つまり多くのサービスを期待すれば高くなるということです。

各社とも鎬を削って囲い込み合戦をしているので、色々上手いことを云いますが、世の中すべて理屈に合わないものはありません。

本体がゼロとか、基本通信料がたった980円とか云う惹き文句に騙されると結局後になって後悔することになります。

○サービスは3社横並び

以前は、GPSや着うたフルはau、おさいふケータイはドコモなど、会社によってサービスに違いがありましたが、今はほとんど違いはありません。ただ、サービスに対応している機種と、ない機種があるので機種選びの時に注意が必

要です。

B) 機種選び方

●携帯電話は目的で選ぶ

まず、携帯電話は以下の4つに大別されます。

種類	説明
一般的な携帯電話	高機能携帯電話や薄型ケータイなど
簡単ケータイ	機能を限定して使いやすさを追求した携帯、機械が苦手な方向け
子ども向けケータイ	GPSや防犯ブザーなど安全機能が充実、(主に小学生以下が対象)
通話専用ケータイ	メールなどはできない。使い方もいたってシンプル。(主にお年寄りが対象)

携帯電話には、子どもや中高年向けのものが発売されています。これらの携帯電話は数も少なく機種選びには苦労しません。が、各携帯電話の説明だけしておきます。

通話専用ケータイは通話しかできません。ですから、操作は非常にシンプルでお年寄りに最適です。ドコモ、auから発売されています。(ソフトバンクは発売していない)

簡単ケータイは、機械が苦手だけど、メールなども使いたいという中高年向けに開発された機種です。操作が簡単で、ボタンが大きく押しやすいものが多いです。はじめから大きい字で表示されるので、目も疲れません。通常の携帯電話でも、簡単モードという機能に設定すると簡単ケータイになるというものもあります。

子ども向けケータイは、その名の通り、子ども、特に小学生向けの携帯電話です。防犯ブザーやGPSなど、子どもの安全をサポートする機能が搭載されていることが多いです。

●携帯電話選びのポイント

しかし、問題はふつうの携帯を選ぶ場合です。携帯電話会社1社で年間、何十機種も発売されるので、携帯電話を選ぶのには一苦労です。今回は、ふつうの携帯電話を選ぶときのポイントを解説します。

●基本的な機能が大切

携帯電話の機能といえば、ワンセグや音楽など派手な機能に目がいきがちですが、本当に大切なのは基本的な機能です。具体的に項目を挙げると、①大きさ、重さ。②ボタンの押しやすさ、③電池の持ちです。

①と②は販売店に言って、実際に手に持って確認してください。ボタンの押しやすさは見逃しやすい項目です。できれば実機（模型でなく本物）でメールや電話番号を入力して確かめましょう。電池の持ちは連続通話時間と連続待ち受け時間という項目でカタログに書いてあります。ただしこれらの時間はあくまで目安です。実際の時間とは異なります。これらの項目は他の機種との比較に用いてください。ただし、ドコモ、au、ソフトバンクで連続通話時間と連続待ち受け時間の測定法は変わります。

●携帯電話の機能は使いこなせば便利

最後に携帯電話の機能を紹介します。

①ワンセグ

ワンセグは携帯電話でテレビが見れる機能。ワンセグの利点は通信料がかからないことです。ただし、電池を消耗してしまうので、連続視聴時間が長い機種を選びましょう。ちなみにテレビが見れる機能には、ワンセグのほかにアナログテレビ機能もありますが画質が悪いのでお勧めしません。ワンセグ機能は暇つぶしとして利用する以外にも役立つ利用法もあります。

録画予約機能を利用して（非対応機種もあります）、朝のニュースを録画して通勤電車でニュースをイヤホンで聞くという使い方です。ニュースは、画面は閉じておいて音声だけ聞いても十分理解できます。携帯電話の小さい画面でテレビを見るのは実用的ではありませんが、音声をイヤホンで聞く方法は以外に役立ちます。

②GPS

GPS機能は、①自分の現在地を調べる②子どもの位置を把握する。などの使い方があります。また、カーナビとしても使える機種もあります。

ただし、GPSを利用して現在地を表示する場合、現在地の地図はインターネットから取得することになります。この地図情報が随時更新される場合、高額のパケット代が発生するので、利用する場合はパケット割引サービスに加入すべきでしょう。また、子どもの位置を調べるサービスやカーナビ機能は別途料金が必要です。

5) ケータイの料金というもの

ケータイを考えると先ず解らないのは料金設定である。
始めて端末を買った時に、売り子の説明をきちんと理解することなど到底不可能であり、説明される一つ一つの言葉が意味不明である。
更に使っているうちに、この料金プランもどんどん変わってしまう。
それは電話会社間の競争によるもので、ユーザーが知らないでいるうちに、料金の仕組みが変わってしまうと、大抵の老人はそのまま放置しているから、古い料金プランがそのまま適用されて、遣いもしない機能にムダに料金を支払っている。おまけにもっと腹立たしいのは、買換え、機種変更、料金プラン変更という3つのユーザーの変更は更に複雑であり、電話会社の方は新しい客ばかりを追って、古いユーザーは放りっぱなしだから、割高な料金だけが銀行口座から自動的に毎月引き落とされるということになってしまうのである。

—研修当日は口頭で説明されたためこの稿未完—